

# ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

橋本二郎



日本国際学園大学

JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

## 目次

1. 教育の責任

2. 教育の理念

3. 教育の方法

4. 教育の成果および今後の目標

5. 参考資料

# 1. 教育の責任

1. 英文法の知識を反復練習によって活用できるレベルまで高め、英語によるコミュニケーション能力に磨きをかける。コミュニケーション能力を高めることは、学習者の学びの機会を増やし、学びの質をも向上させる。

2. 担当科目

現在（2024年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象 学年	受講 人数※	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
コミュニケーション英文法	1-4	5	講義	選択	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)

※受講人数は過去の実績による平均受講人数

## **2. 教育の理念**

1. 英文法、ひいては英語という言語にも関心を寄せながら、英語の運用能力を高めてほしい。
2. . 英語の構造上の特性に注意を払いつつ、単なる暗記による受動的学びを脱却して、能動的な、脳の活性化を伴う英語学習を目指す。
3. 言語は人間による世界の理解の仕方を反映したものであるとすれば、外国語は、学び方によっては、学習者の世界、物事の認識の仕方を多様にしてくれるはずである。外国語を学ぶことによって、物事を相対的に柔軟にとらえる力を身につけてほしい。

### **3. 教育の方法**

1. スピーディに英文を理解し構成するためには、英文法が意識に登らなくなるほどまでにドリル等を繰り返し行うことが必須である。とりわけ、英文中のカタマリに対する感覚を鋭くするために、カタマリの種類とその配列法に焦点を当てる。
2. 英語コミュニケーションは一種の創造である。そのことを理解するためにも、英語表現をさまざまな角度から分析し、学習者一人一人が発見的に学習を進めることを促す。

## **4. 教育の成果および今後の目標**

英文の中の種々のカタマリの理解を深めることによって、英文の読解力、聴解力を伸ばすことができる。

## **5. 参考資料**

授業で使った Powerpoint (部外秘)